

2008 年度

科目名 日本文学講読 I	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 上代日本文学入門		
授業の概要と目標 日本上代文学の基本文献である萬葉集の読解を通して、上代文学全般への入門としたい。		
評価方法 講義への出席状況（40%）、課題の提出状況（40%）、課題に取り組む姿勢（20%）等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 『補訂版 萬葉集 本文編』	著者 佐竹昭宏・木下政俊・ 小島憲之	出版社 塙書房
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 上代日本文学は仮名文字以前の成立であるため、諸作品はすべて漢字で記されています。そのため、原典表記をいきなり眺めた場合、一見それは難解きわまりない印象を受けることでしょう。しかし、実はそこに上代文献を読む醍醐味が隠されてもいるのです。とりわけ、その中心作品である萬葉集は、異国の文字である漢字で日本独特の文学形式である「うた」を記すという苦心の営みの成果であり、その存在自体が、当時の国際文化交流の産物であるとも言えるからです。 この講義では、その収録作品を丹念に読み進めることを通して、萬葉歌の文学史的、日本語史的な意義を明らかにしていきたいと考えています。必要に応じて、関連諸学での文学作品の取り扱い方にもふれ、総合的な視点から作品を見る姿勢を養っていく予定です。 基本的には講義形式とし、著名な萬葉歌を読み進めることを通して、萬葉集を原文のまま読み解くための方法や基礎知識を、文学的かつ語学的に解説していきます。講義内容は以下の通りです。 ①萬葉集概説（1～3回） ②齊明朝の文学―初期萬葉歌―（第4～6回） ③天智朝の文学―額田王作歌―（第6～8回） ④天武朝の文学―人麻呂歌集―（第9～11回） ⑤文武朝の文学―人麻呂作歌―（第12～15回）		